

ハイテク技術で 道路管理、情報提供

北海道開発局室蘭開発建設部
日高道路総合事業所



吉田 淳一 所長

国道274号日勝峠

国道274号は平成3年に延長210kmが開通し、この路線は豊かな森のなかを通っており「石勝樹海ロード」と愛称が付けられています。また、日高山脈を横断する道路の中で最も高い場所に位置する日勝峠（標高1,022m）があることでも知られています。

この道央と道東をつなぐ重要路線の維持管理と改良を行っているのが、北海道開発局・室蘭開発建設部の日高道路総合事業所です。日勝峠が開通する1年半前の昭和39年4月1日に、北海道開発局・室蘭開発建設部の出先機関として、当時の富川出張所から区域を分離。国道237号と国道274号が交差する日高町に、「日高出張所」として発足しました。昭和59年4月1日には「日高道路維持事業所」と名称を変更。昭和62年5月21日に建設事業所と維持事業所が合併して「日高道路総合事業所」となりました。事業所所管の道路延長は、国道237号27.6km、国道274号77.2km計104.8kmです。

現在、ここの所長を務めているのが昨年4月に着任した吉田淳一さんです。札幌におられるご家族と離れ、単身赴任で日夜安全で快適な道路を目指して奮闘されています。

「こちらへ来てまず驚いたのが、鹿が多いこと。特に春先は道路周辺の雪が最初にとけますから草が生えやすいんですね。それで鹿が寄ってきて、かわいそうに車にはねられる事故が多発するんです。はねられた鹿をそのままにしておいては危険なので、時間に関係なく現場まで出掛けなければなりません。」

道路情報提供システムで安全対策

道路の維持管理の仕事といってもその内容は多岐にわたり、また24時間体制。人力だけではなかなか大変です。そこで威力を発揮するのが、最新のハイテク技術を駆使した道路情報提供システムで、道内では中山峠、石北峠、日勝峠と231号石狩市の4ヵ所に設置されています。

この道路情報提供システムとは、各道路の監視用カメラなどが、気象や路面状況、交通の流れなど必要な道路情報を収集して、リアルタイムで路側放送や道路情報板を通じてドライバーに情報を提供するものです。事業所内にいながらにして道路や峠の様子をチェックすることもできます。また、穂別町福山～日高町間の延長の約2割を占めるトンネル内設備もすべて集中管理されています。

もちろん毎日交替で吉田所長をはじめ職員の方たちがパトロールに出かけ、自分たちの目でしっかり確認

することも欠かせません。

「この事業所では、2方向にパトロールに出るんです。274号日勝峠および237号平取町方面と274号登川方面。路面やガードケーブルの損傷、また急峻な法面も気をつけて見るようにしています。」

冬は除雪のウエイトが高くなりますが、夏は清掃や改良工事が多くなり、平成8年度は日高町浪の沢登坂車線工事を進めています。また峠にほど近いウエンザル橋周辺はカーブがきつく、その改良工事も予定されているそうです。

ドライバーのみなさん、マナーを守っていますか？

その昔は難所中の難所だった日勝峠も、年を追うごとに改良され非常に走行しやすい道路に生まれ変わり、ここ10年の間に1日の交通量も倍の約7000台になりました。ゴールデンウィークなどはちょっとした渋滞になることもあります。しかしこうして交通量が増えると、事故も増えるもの。

「道路を良くすると、ドライバーは安心するのスピードを出す傾向にあり、事故が増えるんですよ。路面状況が良くない冬は意外と大きな事故が少ない…」と吉田所長の表情は複雑です。くれぐれも安全運転をお願いしたいと、何度も繰り返します。またせっかく道路情報板に峠の路面が氷結しているのでチェーンを着装するようにと情報を送っても、ギリギリまでチェーンをつけず途中で立ち往生して後続の車に迷惑をかけるドライバーがいたり。ゴミ箱を置くと家庭のゴミや古タイヤまで捨てて行く人もいれば、「道路が滑るのに砂をまいてないじゃないか!。」とすごいけんまくで電話をかけてくる人もいます。さらに空カンのポイ捨ては後を絶たず、春に除草をする時、空カンが機械にひっかかりとても危険なんだそうです。

「マナーある行動で、お互いに気持ちいい関係を保とうじゃないですか。」と吉田所長はドライバーに呼びかけています。

みんなで力を合わせ、日高の道をより快適に

ところで、今でこそ冬でも峠を越えることができますが開通当時の大雪の時は、何日も通行止めになったといいます。当時のことを知る委託職員の平野幸光さんが懐かしそうに、昔のことをふり返っていました。

「開通したばかりの頃は、冬は全く通れませんでした。除雪車というのがブルドーザ1台ぐらいしかなくてね。そうそう、スキーで峠を行き来したこともありましたがよ。雪崩にあって1週間ぐらい降りてこれないことも。やっと降りてきたら免許の更新日が過ぎてい

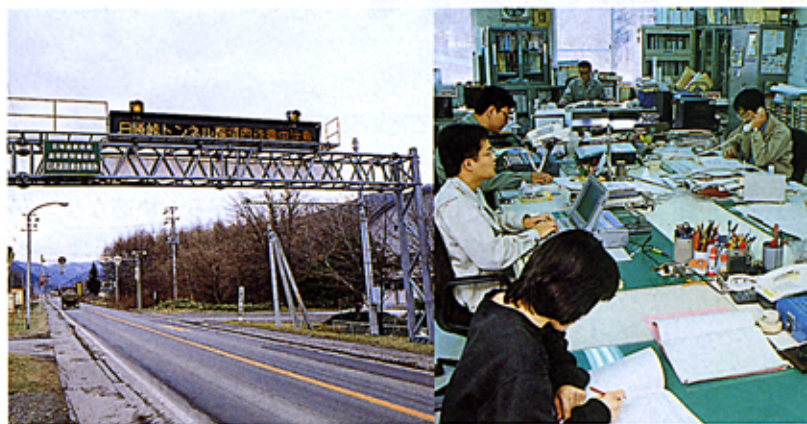
て、大変だったことを記憶しています。」

もちろん、現在も大量の積雪は悩みのタネ。除雪ステーションでは、時間を問わずいつでも出動できるよう請負業者の方たちが待機しているそうです。

所長の仕事は現場へ行くこともあればデスクワークの日もあり、また業者の方、警察や地域の方々との対応など総合的なものです。事業所の陣頭指揮をとるのはもちろんのことです。

「現在は委託の方も含め42名の職員がここにおります。けっこう若い人も多いので活気があって僕も若返る感じがします。」

そうニコリ笑う所長は、当分の間長期出張者用の寮暮らし。食事の心配はいりませんが、洗濯など自分の身のまわりのことは自分でしています。以前、旭川勤務の時にも単身赴任を経験していて食事だって自分で作るようになったといいます。札幌へ帰るのは月2回ペースで、やっぱり家族の顔を見るとホッとします。



「寂しくない」といえばウソになるかもしれませんが、日高町で暮らしはじめて、山菜採りとキノコ採りのおもしろさにすっかりとりつかれたようで「ふもとから峠まで順に、長い期間いいギョウジャニンニクが採れるんですよ。ブンブン匂うんで、あまり食べ過ぎないように気をつけてはいるんですけどもね（笑い）。秋はシロシメジ。みそ汁にしても、何にしてもおいしい。」と話つきません。

吹雪や雪崩など日勝峠の維持管理は、特に冬に苦労が多いといいます。けれども大変だからこそ、業者さんを含めみんなで力を合わせて“安全な道路”を確保したいと言葉を強める吉田所長。

「ウチの道路の不備のために事故が起こったなんていわれたくないですからね。悪いところはスグ直す、良い道路を作る。街と街を結ぶ道路には、北海道の暮らしをもっともっと快適にできる可能性があると思いますよ。」

そう爽やかな笑顔で語ってくれました。